

は
い
い
!

男と女が共に歩むための情報誌

Hi, あきしま

vol.27
2009.3



特集

オリンピックでの女性のあゆみ
「継続こそ力なり! 輝きを増す生き方」

— 山本博さん講演会より —

● INFORMATION

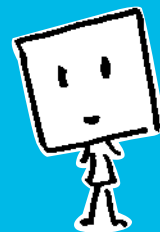
「意識調査」の協力をお願い

● BOOK GUIDE

『ワークライフバランス社会へ』

～個人が主役の働き方～

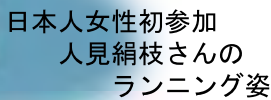
『「婚活」時代』 ほか



日本人選手
の男女比

※当時は陸上競技が女性の身体に悪いと考えられ、女性の参加には否定的であった。

61 294	20 147	16 103	11 61	不参加	中止	中止	17 162	16 115	1 42	0 19	0 15	中止	0 2					女 男	日本人選手 の男女比
2 27	1 17	0 19	0 9				1 19	1 17	1 4	0 1	0 2							女 男	日本のメダル 獲得数男女比



日本人女性として初めて参加した人見絹枝が、陸上800メートルで銀メダルを獲得。
※新聞記者でもあった人見は、女性のスポーツ参加のため、積極的に活躍した。



0 15	中止	0 2
0 2		

注：ここでは女性の躍進のきっかけを中心に取り上げました。

「世界を結ぶオリンピック～情熱・人・スポーツ～」 東京都／(財)日本オリンピック委員会／東京オリンピック・パラリンピック招致委員会
<http://www.joc.or.jp/olympic/>

トピックス

アトランタオリンピック水泳で、決勝にすすめなかった千葉すずさん（現 山本すずさん）は、テレビ中継で「オリンピックは楽しむつもりで出た」という発言をし、議論を呼んだ。それまでの国の代表という意識に加えて、自分のために頑張るという価値観の変化がうかがわれる。

また、有森裕子さんの「自分で自分を褒めてあげたい」、谷亮子さんの「ママでも金」という言葉からは、環境を変革しながら、スポーツを通じて自分の可能性にチャレンジする姿をみることができる。女性は結婚すれば競技生活を辞めるのが一般的であった時代から、結婚・出産後も競技を続行できるようになってきた。

男性、女性にとらわれず、自分の進むべき道は自分で切り開いていく、そんな人たちにエールを送りたい。

豆知識

リボン運動

知っていますか？リボン運動

このようなリボンは「アウェアネスリボン」と呼ばれ、リボンの色によって、伝えたい問題が異なり、それぞれのメッセージが込められています。

★ホワイト・リボン

発展途上国における妊産婦の命と健康を守る

★ピンク・リボン

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さ

★レッド・リボン

HIV 感染者・エイズ患者に偏見や差別を持たず支援をしていく意思

★パープル・リボン

配偶者や家族に対する暴力や、女性・子どもなどへの暴力防止

★オレンジ・リボン

児童虐待防止



2008	2004	2000	1996	1992	1988	1984	1980	1976	1972	1968
第29回	第28回	第27回	第26回	第25回	第24回	第23回	第22回	第21回	第20回	第19回
北 京	ア テ ネ	シ ド ニ ー	ア ト ラン タ	バル セ ロ ナ	ソ ウ ル	ロ サン ゼ ルス	モ スク ワ	モン トリ オール	ミュ ンヘ ン	メ キシ コシ ティ
ママとなった柔道の谷亮子は五大会連続でメダルを獲得。 ※念願の金メダルを獲得した女子ソフトボールチームの上野由岐子の三試合連続投球413球が話題となる。				女子マラソンで、有森裕子が銀メダルを獲得。 ※有森は次大会でも続けてメダルを獲得し、この大会以降女性選手の活躍は目覚ましく、日本のメダル獲得数の約半数を占めるようになる。		日本選手団の旗手を女性で初めてシンクロナイズドスイミングの小谷実可子が務める。			最終聖火ランナーに史上初の女性を起用。	
169	171	110	150	82	71	53	不参加	61	38	30
170	141	158	160	181	188	178		152	144	153
12	17	13	7	9	3	3		1	2	1
13	20	5	7	13	11	29		24	27	24



© Omma

競技服は科学的データに基づくものへ発展

男女が共に参画できる社会をめざして オリンピック招致記念講演会より

継続こそ力なり！ 輝きを増す生き方

講師 山本 博さん

必ず自分が気がついていないもの、まだ開花されていない部分があります。継続していたおかげで、当時41歳の私が20代のときに気がつかなかった自分に出会えたわけですから。それに会えることを考えると、人生は、ものすごく楽しいものだと思います。

結果が保証されないところ

最近では、子どもたちを頑張らせるときに、親が簡単に、努力と物々交換するようになってしまいい、だんだん今の子は見返りがないと頑張らなくなってきました。いいと思います。いつまでも、何か与えられる親だったらいいます。れど、どこかで尽きてしまいます。そうするとその子のがんばりは、結構そこで止まってしまいます。

必死になれる子

ですから、結果が保証されないなかで夢を見るような子に育てていくには、スポーツというのはある意味いい素材だと思います。

私は、若い人たちに「10年一つの節目として頑張れ」とアドバイスを与えています。「10年必死にやっただめだったときには、他のものをやっごらん。少し何かを変えただけで、ある枠の中でも得

意な分野に出会えるから」と敢えて厳しい言い方もします。

そのかわり、その10年必死にならない子は何をやってもだめ。だから、私が教育のテーマとしているのは、「必死になれる子をどうやって育てるか」ということです。

能力そのものが誰だつてすぐなるわけではありません。だけれど、なんでも必死になり、自分を常に限界に持っていつて、常に限界を見に行く習慣がある子は、何

をやっても成功します。

アーチェリーとの出会い

当時私が住んでいた横浜市内には、アーチェリー部がある学校は2校しかありませんでしたが、そのうちの1校にたまたま入学したんです。これが私にとっての幸運の第一歩だったと思います。私は、自分でおもしろそうだと思ったことは後に回さず先にやってしまう性格なので、興味をもったその日



のうちに練習にいきました。

なんと言われても私の人生

ロサンゼルスオリンピックでは、初出場で銅メダルを取れたのは幸運でした。オリンピックでメダルを取る時に、1回目で取る方が一番多いです。やはり過去がないなかで怖いものがなく、その人が持っているパワーが一番でやすいですからね。

メダルを取っても1年経つとオリンピックのブームなんてなくなりますので、就職には苦労しました。教員になりましたが、採用の条件は引退をすることだったので、大学に残りソウルオリンピックを目指しました。結果は8位でした。みんなに責められましたね。

結局競技を続けながら高校の教員として採用してもらえることになり、結婚もして「第二のオリンピック人生・教師人生」がスタートしました。

ところが、3回目の出場を果たしたバルセロナオリンピックでは

インタビュー

昭島市出身のオリンピック

やまざき さち こ

山崎幸子さん(現 金田幸子さん)

モントリオールオリンピックは？

水泳を始めて1年半目に「女子自由形100m」の選手として、モントリオールオリンピックに出場しました。14歳でしたからプレッシャーもあまり感じることなく、無我夢中で参加したという状態でした。試合になると、母がずっと付き添ってくれたので、妹たちには寂しい思いをさせたと思います。

選手生活は？

1970年当時は、昭島から一番近いスイミングスクールが小金井市にしかなく、選手としての練習をするために、小金井市のコーチ宅で生活をしました。元日以外は、毎朝練習をしてから昭和中学校に通い、帰って来てまた練習という日々でした。当時は、女性の水泳選手は、体力的に高校生までがピークと考えられていた時代だったので、オリンピック選手として選ばれるのは、モスクワが最後という思いでその後も練習を続けていましたから、日本が参加しなかったことは大変ショックでした。そして、高校3年生のときに引退をしました。

北京オリンピックを見て？

水泳のレベルが上がっていることをうれしく思っ

ています。とくに女子のレベルが上がっていることを実感します。制限タイムを切る事ができないとオリンピックに出場できませんが、レベルが上がって出場できる枠が増えてきました。「女性が活躍する場が増えたのではなく、活躍する人が増えた」と感じます。スポーツの世界は、努力＝結果の世界ですから、男女の差別はあまり無いように感じます。

現在は？

出身のスイミングスクールでコーチをしています。が、選手生活のつらさを知っているがゆえに、強化選手の指導にはあたっていません。



スイミングスクールにて



変えた子どもの一言

17位、そうなると4回目のアトラントオリンピックは、もう誰も期待してくれません。「もういい加減にしろ」とまでいわれました。しかし、そこでいうことを聞いてしまったのは私の人生ではなくなってしまうです。がんばって望んだ結果は19位でした。

シドニーオリンピックの選考会ではとうとう落選してしまいました。3人まで出場できるのに、4位です。辛かったですね。オリンピ

ックのニュースが始まると、子どもを連れて家を出て行ったりして、オリンピックの映像を見るのができませんでした。その当時の家は本当に暗かったです。

ある日、子どもが「どうして家にはオリンピック来ないの。よそのお家には来ているのに」と妻にいったそうです。それを聞いて、私は「なんて情けない父親なんだろう」と気がつきました。今までは「金メダルをとれば、家庭が幸せになれる」と思い込み、家庭を犠牲にして練習に明け暮れていましたから。

翌日から、私は「もうオリンピックの金メダルのためではなく、一生懸命何かに向かって取り組む姿や、『結果が保証されない』競技の世界で、一生懸命この年齢でも向かっていく父親の姿を子どもに見せていこうかな」という気持ちになりました。そうすると、練習も変わりました。今までは、自分がやる練習は常に金メダルにつながるかということしか考えていなかったのですが、一生懸命がんばるといことが自分の中の基本に

なると、どんなことでも取り組めるようになりまし



た。そうやって目指したアテネオリンピックでは、

銀メダルを獲得することができました。そして、北京オリンピックは落

選しましたけれども、リポーターとして会場に立つ自分に変わりました。シドニーオリンピックの時には、オリンピックの映像すら見ることができなかった自分が、今度は現地に行って他の選手ががんばっている姿をしっかりと生で見、次の自分に活かそうと思えるところまで強くなることができたのです。

真剣に向き合う人生

自分自身がシドニーオリンピックで落選したときに本当に無気力になり、実際に練習をするときにも全然力が入りませんでした。

しかし、そういう自分と出会っ

て、たとえば学校に来ることができなくなってしまうている子どもたちに対して、単純にやる気がないと思っていた若かりしころの自分が恥ずかしく思えました。シドニーの経験をしてからは、子どもたちには、そういう心に至った経緯があるのだから、「もっと話し合い、どこからそうなったのか、お互い話しをすることが必要だ」と思えるようになりました。

生徒とのやりとりも親子でのやりとりでも同じですが、「未熟でもいいから真剣に考えてあげる、真剣に向き合う」ということが大事だと思っています。

プロフィール

山本博(やまもと・ひろし)さん

オリンピックメダリスト。日本体育大学女子短期大学部准教授。現在短大准教授として学生を指導するとともに、自らも現役選手として活躍している。

BOOK GUIDE

新しく購入した本を紹介します。
男女共同参画ルーム「おあしす」に
ありますのでご利用ください。

☆ 今、人間らしく「生きる」って何！

『ワークライフバランス社会へ』
—一個人が主役の働き方—

大沢真知子
岩波書店 2006年3月

働くことや生きることの意味を雇用神話の崩壊、働くことに対する意識の変化、ワークライフバランス社会を展望するなど8章の構成で問い直す。



『「婚活」時代』

山田昌弘ほか
ディスカヴァー・トゥエンティワン
2008年3月

「婚活」時代の到来、結婚したいのにできない社会的要因、「結婚」と「婚活」の実態、成功する婚活など、晩婚化・非婚化の要因と実態をリアルに伝える。



☆ ゼロからの出発！

『持続力』

山本 博
講談社+α新書 2006年4月

継続こそ力なり！年齢を重ねるごとに輝きを増す生き方について、克己の精神、栄光と挫折は表裏一体、強き敗者こそ真の勝者、ゼロからの出発などをテーマに復活の銀メダリストが語る。



☆ 男女共同参画！

『ジェンダー白書4』
—女性と少子化—

北九州市立男女共同参画センター
“ムーブ”編
明石書店 2006年6月

現代の日本社会が直面する「少子化」問題を、ジェンダーの視点で捉えたと課題が見えてくる。その課題を克服するため、国や企業の対策を検討し、若者や女性の能力発揮、「男女共同参画」の必要性を考える。



INFORMATION

男女共同参画プラン策定のために「意識調査」を実施します。ご協力をお願いいたします。

昭島市男女共同参画プラン（あきしまジェス21）をご存知ですか。

平成23年度からの新しい計画を策定するために、5月ごろの予定で「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施します。

調査票が届いた場合には、ご協力をお願いいたします。

あきしまジェス21（平成13年度～平成22年度）

計画の基本理念

- 1 人権の尊重
- 2 ジェンダーの視点の意識形成
- 3 女性のエンパワーメント
- 4 男女の自立とパートナーシップの確立
- 5 市民と行政のパートナーシップ

仕事の
充実

趣味
生活

家族の
ふれあい

地域
活動

ゆとりが
ほしいわ～



旅行が
したいなあ…

夢みるライフ

男女が互い
に人権を尊重しつつ、責任も分か
ち合い、個性と能力が十分に発揮できる社会
の実現をめざし、1999年に「男女共同参画社会基本
法」が制定されました。それから10年、私たちの生活は変
化したのでしょうか。内閣府の調査によると「仕事・家庭生活・
地域や個人の生活」の調和を望んでいる人は30.7%いるのに対
し、現実に調和がとれている人は2.3%（2008）です。また、日
本における女性の政治及び経済活動への参画を示すジェンダ
ー・エンパワーメント指数は108か国中58位（2008）で、いま
だに女性の能力が十分に発揮できていません。これらを解
決する取組みとしてワーク・ライフ・バランス（仕
事と生活の調和）の実現が今日の課題と言
えるでしょう。

現実ライフ



バランス
どうですか?

あきしまライフ

参考：内閣府「仕事と生活の調和
（ワーク・ライフ・バランス）
に関する意識調査」
内閣府「共同参画」

© Omma